

僧帽筋肉内血管腫の1例

貫野宏典 古田凱亮 鈴木健一
 砂川理三郎 小林尚史 白田亮介
 中島昭人 白石好 中山隆盛
 稲葉浩久 西海孝男 森俊治
 磯部 潔

静岡赤十字病院 外科

要旨：筋肉内血管腫は四肢骨格筋に好発する比較的稀な疾患である。本疾患の術前診断は困難であり、また手術も完全切除と機能温存を考慮する必要がある。今回我々は僧帽筋内に発生した筋肉内血管腫を報告する。

Key words：筋肉内血管腫，海綿状血管腫

I. はじめに

筋肉内血管腫は通常皮膚に病変はみられず、皮下の軟性腫瘍や疼痛等の症状がみられるため一般の血管腫とは別の疾患として扱われている。

II. 症 例

症例：12歳 男児

主訴：左頸部腫瘍

既往歴：腸炎（4歳時）

家族歴：特記事項なし

現病歴：平成15年5月、サッカーの試合で転倒後より左後頸部痛出現。翌日同部の腫脹に気付き当院整形外科受診。血腫として経過観察されるも改善せず。Computed Tomography (CT) を施行したところ血管腫と診断され手術目的にて外科転科となった。

入院時現症：左後頸部に約5×6 cmの圧痛を伴わない可動性に乏しい腫瘍で表面の皮膚には異常所見は認めなかった（図1）。

検査：血液生化学検査、腫瘍マーカーは異常値を認めなかった。

皮膚及び画像所見

皮膚は弾性軟の可動性に乏しい腫瘍として触れ色素沈着等は認めなかった。CTでは僧帽筋内に一部石灰化を伴う低吸収の境界明瞭な腫瘍が認められた

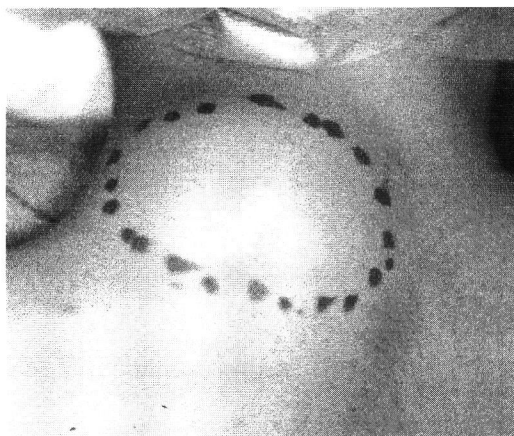


図1 皮膚所見

（図2）。

手術所見

僧帽筋の走行に沿って皮膚切開。僧帽筋を分けると筋肉内に血管腫を認め、辺縁で剥離した。下端は肩甲挙筋内に入り込んでいた。一部筋肉と剥離困難な部位があり筋肉ごと切除した。副神経は温存した。現在術後2ヶ月で機能障害等認めていない（図3）。肉眼所見：腫瘍内部に大小の血管が入り込み海綿状の像を呈していた（図4-a）。

病理所見：血管腫の血管壁は正常であり、粥状硬化

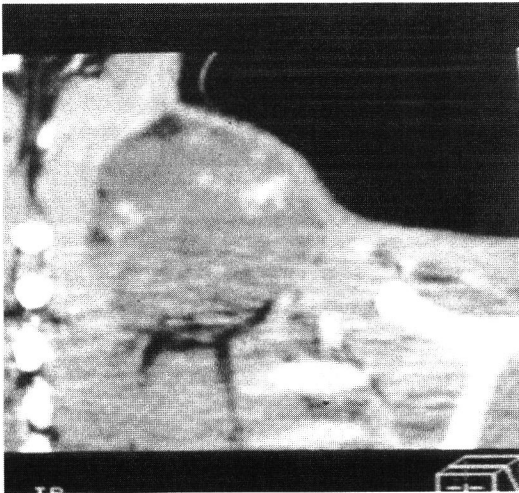


図2 Computed tomography
前額断

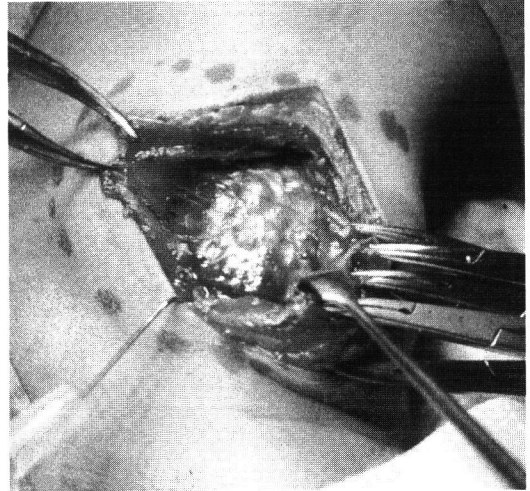
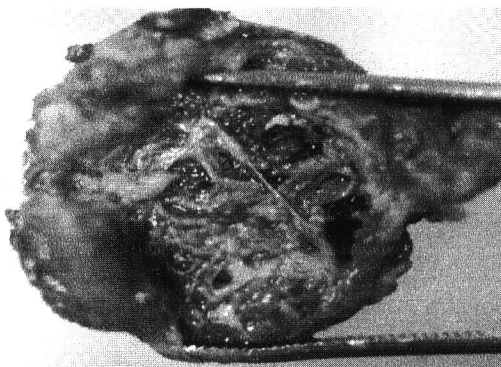
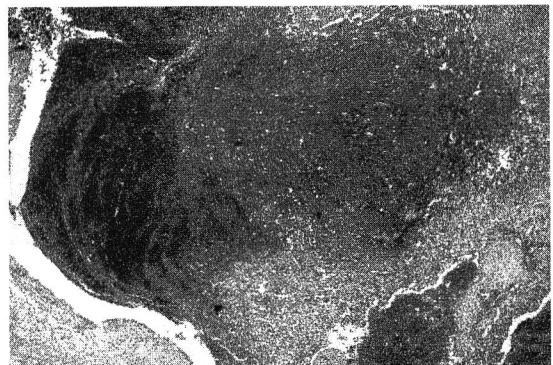


図3 術中所見



a 切除標本 肉眼像



b 病理 H-E染色 <x 4>

図4

等の一般的な動脈瘤の所見は認めなかった。悪性所見も認めなかった (図4-b)。

III. 考 察

筋肉内血管腫は1843年、Listonが初めて報告し、日本においては1900年の松岡以来、約250例が報告されている。筋肉内血管腫は比較的まれとされ、血管腫全体の0.8~4.0%程度と報告されていたが、最近谷川らは30.8%と報告しており決してまれな疾患とは言えなくなっている¹⁾。筋肉内血管腫は病巣が比較的深層にあり、特徴的な臨床像を示さないことから、診断に難渋することも多いが、時に機能障害を合併することが報告されている。四肢に発生す

る血管腫には海綿状血管腫、Klippel-Weber症候群、糸球体腫瘍などがある。海綿状血管腫は赤色、青紫色などの色調を呈し不規則に膨隆する。

鑑別診断としては、血腫、脂肪腫、肉腫等があるがCT、MRI、血管造影などが診断に有用である。

病因は若年発生率が高いことにより、先天的な筋肉内の胎児期血管組織の遺残、あるいは血管奇形や過誤腫とされる。増悪因子として外傷、感染症が関わっている。本症例もサッカー中の外傷により血管腫が増大したと考えられる。

治療としては外見上、機能上の問題がなく、疼痛の訴えない症例については経過観察を行っている。しばしば圧迫包帯、アスピリン投与などによる

血栓形成予防を行うこともある。

四肢に発生した症例では疼痛，顔面の症例では整容面での訴えが多い。病変の限局した症例では腫瘍の全摘は容易ではあるが，広範な症例では切除により整容的，機能的な問題が生じやすく完全切除は困難である。そこで最近ではその様な例では硬化剤の注入による硬化療法が行われるようになってきた²⁾。

IV. おわりに

僧帽筋内血管腫の一例を経験したので報告した。

治療に際し機能温存を含めた血管腫の完全摘出が望まれる。再発例も報告されており，長期にわたる経過観察が重要である。

文 献

- 1) 平野哲，佐藤隆裕，平野亜佐子ほか。筋肉内血管腫の硬化療法の経験。整形外科 2004；55(1)：74-76.
- 2) 田口哲也，辻美智子，窪田誠，由井直子ほか。尖足拘縮をきたした下腿筋肉内血管腫の1例。整形外科 2003；54(12)：1571-1573.

A Intramuscular Hemangioma in Mitralmuscle

Hironori Kanno, Yoshiaki Furuta, Keniti Suzuki,
Risaburo Sunagawa, Hisasi Kobayasi, Ryosuke Usuda,
Akihito Nakajima, Ko Siraisi, Tkamori Nakayama,
Hirohisa Inaba, Takao Nishiumi, Syunnji Mori,
Kiyoshi Isobe

Department of Surgery, Sizuoka Red Cross Hospital

Abstract : Abstract:Intramuscular hemangioma is a rare disease that occurs in extremities muscles. Preoperative diagnosis of this disease is difficult,undergo we complete resection with functional reservatio We report a rare case of intramuscular hemangioma occurring at mitral muscles.

Key words : intramuscular hemangioma,



連絡先：貫野宏典；静岡赤十字病院 外科

〒420-0853 静岡市追手町8-2 TEL (054)254-4311